

## 小学生が将来なりたい職業ランキングに “社長”がランクインする国に

佐古 さ や 香  
(倉敷ボーリング機工株式会社)  
代表取締役社長



### —はじめに—

中小企業はものすごくたくさんあるし、自分が思い立ったら誰でも起業でき、社長にもなれる。しかし現実には、小学生が将来なりたい職業第一位はユーチューバー。社長も近い将来ランクインできないだろうか？社長になりたい人がなれるまでには、様々な協力者が必要である。そんな前向きな起業家・中小企業継承者の良きアドバイザーになっている商工中金さんの各ご担当者にエールを贈りたい。

### —誰でも中小企業の社長になれる—

日本には中小企業が山ほどある。中小企業庁のHPによると、企業全体に占める中小企業の割合は99.7%もある（2016年度）。町に出て「社長！」と声をかけると、あの人も、この人も、その人も、自分の周りにいる人ぐるとみんなが振り返るのではないか？と思えるほどの数である。弊社もそんな中小企業の一つであり、よくあるファミリービジネスを営んでいる。

弊社は祖父が1957年に創業し、今年で67年目を迎える。社名の通り、岡山県倉敷の地で、ボーリングという機械加工を行い、中古自動車のエンジンの内径を大きくして、燃焼効率を向上させることを生業にしてきた。高度成長期、コンビナートの石油化学や石油精製・製鉄・電力といった産業向けに、回転部品の保全の一環で、「溶射」という、金属などの粉末材料を高温で溶かして高速で吹き付ける技術により、部品の延命・寸法復元による修理・補修を行うようになった。二代目である父はセラミック溶射皮膜でより部品の長寿命化を、と、技術・研究開発に没頭した。晩年、第三回ものづくり日本大賞優秀賞を受賞したことは自信に繋がった。ここまでの話、戦後に会社を興した創業社長と、父親の会社を継承した長男（二代目）社長の流れ、中小ファミリー企業の姿と言える。そして、三代目は三兄弟姉妹の長女にバトンが渡された。

### —三代目に？—

私がまだ十代のころ、地元県立高校への登竜門は総合選抜入試だった。受験した1,200人超が4つの内のどこかの高校に進学するという制度で、私は大多数の中の一人の学生であった。その後も県内の大学を卒業し家業に入社した結果、見えている世界の狭いこと、ヒヨコもヒヨコだったに違いない。これはまずいと思ったのか、先代から言い渡されたのは、「海を渡れ」だった。英語が全く話せない私は、たった一人で約15年間、米国で技術研修した。ただ、ここでの学びは大きく、海の向こうの「世界を知る」ことができた私は、「いいえ」という当たり前の自己主張と、なぜかという自分の意見を伝える訓練を、たたき込まれた気がする。そして次の刺激は、「川を上れ」だった。「ビジネスには王道があり、歴史を紐解いてそれを学べ」と

いうもの。その当時、MBAという響きのかっこよさもあり、専門職大学院にて2年弱過ごし、理論武装できたようだ。ということは、海外に行ったり、学問として経営を学んだりすれば、もうこれで、多くの子どもが将来の社長予備軍である。

### ー社長になってみてー

私はぐいぐいヒトを引っ張っていくタイプではない。社長になって十数年、やっていることは、「うったてを立てる」こと。どうやら他県では、習字の第一画目を始めるときに筆を半紙に置いて、立派な一画を書くこと、のような使われ方のようなのだが、わが県では、何か物事を始めるときに使うのである。何か新しいことを始めるときに躊躇している状況で、「よし、うったてを立てよう」と言うと、その場が一体となって前向きになれる。子どもの世界では「この指止まれ！」的な、仲間を集めて一緒に遊べる子も、社長の素質があるだろう。

弊社では会社スローガンを毎年掲げているが、『両利きの経営』の両利き（2つ）から更にプラスして、4つの「シンカ」に取り組んでいる。「新化」・「深化」・「進化」・「芯化」である。まるで男児が好きな戦隊物のヒーローが変身するような語呂、「シンカ・シンカ・シンカ・シンカ」のようではあるが、（新）規顧客の創出と、既存顧客の（深）掘りを営業方針に掲げ、ITやAIなど（進）化した技術を生産現場で導入し、先行設備投資をした新規技術を新たな会社での（芯）化ビジネスにすることである。

大きなテーマでうったてを立てることは、その後の成功を妄想してワクワクする。発想力がある子は社長に向いていると思う。

### ーつながりが大切ー

社長を続けている心の拠り所は、様々な角度から助言をくれるサポーター、人とつながっていること、である。そして、自分自身の前向きな気持ち、私にとっては、「しなやかさ」と「しぶとさ」が必要であると感じている。

私は4つの社外のつながりを大切にしてきた。1つ目は、岡山県出身の実業家で、京セラの元社長 伊藤謙介氏を囲む会である、おかやまIサロン。「リーダーは語り部たれ」は何度も聞いたフレーズで、そのことが関連しているのか、弊社が昨年作ったキャッチコピーには「ヒトには情熱を」という、ヒトに興味を持って接することの大切さを盛り込んだ。その他には、岡山中金ユース会議で先輩からたくさん刺激を貰い、岡山県ものづくり女性中央会では本気で経営について語り合っている。

「しなやかさ」は、一般社団法人ものづくりなでしこのキーワードでもある。女性らしいしなやかさで、柔と剛を合わせ持って活きる様。少々のことではへこたれない強い気持ちが大切に語られている。全国には製造業できらきら輝く女性社長が多数いる。

「しぶとさ」は「諦めが悪い」イメージをお持ちの方もおられるかと思うが、少しニュアンスが違う。中学・高校時代、バスケットボール部だったわたしは日々、何度も何度もシュートが決まるまでカットインの練習を繰り返させられた。できた経験を体に覚え込まされた感覚。そんな「しぶとさ」がビジネスで活きる気がする。スポーツでこの「しぶとさ」を体感・共感してきた子も社長になって困難に立ち向かえらると思える。

### ー結びにー

性別関係なく子ども達が挑戦して、新しい会社を興して欲しい。そして、多くのヒトに社長のバトンを繋いで貰いたい。社長になりたい人が夢を実現し、応援してくれるサポーターと繋がることで、より情熱的に活動意欲が増していく。こんな活気あるサイクルで、中小企業は社会を支えているんだ、と声を大にして言いたい。ますます元気な社会を目指して、地域の中小企業の社長を商工中金さん、サポートお願いします。